

編輯室の内外

秋酣にしてもの淋しさを感じるのとき、新年度豫算要求に對する大藏省の査定が發表され、自然の秋と相和して我が路政界は孤城落莫の感がある。豫算の繰延削減をモットーとした憲政會内閣時代に於てさへ年額三百五十萬圓を維持した政府の道路改良費豫算が百萬圓に減額されたことは、何と言つても反時代的な遣り方である、失業者は街頭に職を求め農民は鍼を杖に茫然自失してある、此險惡な世相を無視して無理な財政緊縮を實行せむとする財務當局の不明は憤るべきものだ。

失業者救濟策として國道を改良するイヤ府縣道を改良すると、新紙を通しての宣傳

は毫に上手だ、併し夫れを宣傳した後で既

定の道路改良費を削減してゐる、矛盾も亦茲に至つては評するに言葉が無い、河川や港灣道路と言つたやうな澤山に勞働者を使役する事業を中止繰延して失業者を簇出せしめ、片方に於て夫れを救濟すると言ふ妙案?だ、餘り的にはならぬ、之も亦結局のところは紙上の救濟に終るであろう。併し國民はいつ迄も此手に乗つては居ない。

紙上の路政ならモー一つ、路線認定と言

ふのがある、道路は改良したいが財源とする起債を政府が許して呉れない、そこで思ひ附かれるのが府縣道路線の認定だ、不景氣なときにはコンサ仕事でもして居れば役

目が勤まると思つて居るのだから始末が悪い、噫、路政も茲で行き止まりと言ふべき

か。

此難狀を打開せよ、何をしてゐるのだ併と言つた調子の激勵が編輯室に投じられてゐる、が併し緊縮の地蔵さんに念佛を唱へて見たところで其の効果は知るべきのみだ役人根性を出した譯ではないが、矢張り時機の到来を速からしむることに力めやう。

本誌定價 五十 錢
一ヶ年分 金 六 圓

東京市麹町區大手町一丁目内務省内發行所 社團道路改良會

編輯行兼

小 島 效

東京市小石川區諏訪町五六
印刷所 常磐印刷所
印 刷 者 堀江關武